

梶山女学園大学・大学院 FD活動報告書
(2024年度)

梶山女学園大学・大学院 ファカルティ・ディベロップメント

第12号 (通巻 第25号)

2024年度

梶山女学園大学・大学院FD活動報告書

梶山女学園大学・大学院 ファカルティ・ディベロップメント

第12号（通巻第25号）

椋山女学園大学・大学院 FD 活動報告書 (2024年度)

目 次

1	はじめに	全学FD委員会委員長・大学院FD委員会委員長	五百部	裕
2	全学FD活動報告			
2-1	全学FD委員会記録		2	
2-2	授業アンケート		4	
2-3	各種研修		12	
3	学部FD活動報告			
3-1	生活科学部		14	
3-2	外国語学部		17	
3-3	人間関係学部		20	
3-4	情報社会学部		24	
3-5	現代マネジメント学部		25	
3-6	教育学部		26	
3-7	看護学部		29	
4	大学院FD活動報告			
4-1	大学院FD委員会記録		32	
4-2	大学院授業アンケート		33	
5	研究科FD活動報告			
5-1	生活科学研究科		35	
5-2	人間関係学研究科		38	
5-3	現代マネジメント研究科		41	
5-4	教育学研究科		42	
6	FD委員会名簿			

1 はじめに

はじめに

2024年度 相山女学園大学全学FD委員会委員長

同 相山女学園大学大学院FD委員会委員長

五百部 裕

2024年度より、相山女学園大学全学FD委員会、ならびに同大学院FD委員会の委員長を務めることになった副学長（2024年度は学長補佐）の五百部です。相山女学園大学および相山女学園大学大学院で2024年度に行われたFD活動についての報告書がまとまりましたのでお届けいたします。本報告書をまとめるにあたり、学部・研究科のFD委員の先生方、教務課・企画課の職員のみなさんには、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

さて、2024年度より学長補佐を務めることになり、これまで1教員として参画してきたFD活動を全学的視点から推進していくことになりました。このような視点に立つと、これまであまり見えてこなかったFD活動の問題点に気づくようになりました。例えば、現在、インターネットを利用して実施している授業アンケートですが、学生の回答率が芳しくありません。また教員が作成する授業アンケート結果に対するリフレクションペーパーの提出率も漸減傾向にあります。こうした問題を2025年度以降、改善していく必要があると考えています。

また2024年度より、学習成果の可視化を目指しSugi-PORTというシステムが導入されました。このシステムは、学生個人々々の学修状況や各種の活動記録が記入できるようになっています。加えて学生には、長期的、ないしは半期ごとの目標を記入し、それに対する半期ごとの振り返りを記入することが求められています。そしてこうした記録をもとに学修生活指導教員がコメント等の記入で対応するようになっています。このように、このシステムを利用して、学生が自分の学びを振り返り、就活等に活用していくことが期待されています。しかし2024年度は導入初年度ということもあり、学生・教員の双方とも手探りの状態でこのシステムを使っていたというのが実情だと思います。第4期の認証評価においては、学修成果の可視化という点は重要視される項目であり、このシステムをより実効性のあるものにしていくことも今後のFD活動において重要になってくると考えています。さらには、ここで取り上げた全学的な活動だけではなく、学部・研究科といった組織レベル、さらには個人レベルでのFD活動についても認証評価において、その内容が問われるものと考えられます。

このようにさまざまな課題を抱えているFD活動ですので、今後とも皆さまの協力により、よりよい形へと改善を図っていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

2 全学FD活動報告

- 2－1 全学FD委員会記録
- 2－2 授業アンケート
- 2－3 各種研修

(第 1 回) 2024 (令和 6) 年 4 月 23 日 (火) 17 : 05 ~ 17 : 40	1 報告 なし 2 議題 (1) 2024 年度 F D 活動に関する件 ① 2024 年度 F D 活動計画に関する件 ② 2024 年度前期授業アンケートに関する件 ③ 2024 年度新任教員研修に関する件 ④ 2024 年度 F D 研修会に関する件 (2) 2024 年度前期学生 F D スタッフ申請に関する件 (3) その他
(第 2 回) 2024 (令和 6) 年 5 月 28 日 (火) 17 : 00 ~ 17 : 30	1 報告 (1) 椋山女学園大学改革アクションプラン 2024 について (2) 2024 年度学部 F D 活動計画について (依頼) (3) 2024 年度前期授業アンケートの実施科目確認について (4) その他 2 議題 (1) 2024 年度前期学生 F D スタッフ申請に関する件 (2) 2024 年度後期学生 F D スタッフ募集要項に関する件 (3) 2024 年度 F D 研修会に関する件 (4) その他
(第 3 回) 2024 (令和 6) 年 6 月 25 日 (火) ~ 6 月 29 日 (土) メール会議	1 報告 なし 2 議題 (1) 2024 年度 F D 研修会に関する件 (2) 2024 年度前期授業アンケートリフレクションに関する件 (3) その他
(第 4 回) 2024 (令和 6) 年 7 月 23 日 (火) 17 : 00 ~ 17 : 20	1 報告 (1) 2024 年度学部 F D 活動計画について (2) その他 2 議題 (1) 2024 年度後期学生 F D スタッフ申請に関する件 (2) 2024 年度 F D 事業推進予算に関する件 (3) 2024 年度後期授業アンケート実施要領等に関する件 (4) その他

(第 5 回) 2024 (令和 6) 年 9 月 24 日 (火) ～ 9 月 30 日 (月) メール会議	1 報告 (1) 2024 年度 F D 研修会実施状況について (2) 2024 年度前期授業アンケート実施状況について (3) 2024 年度後期授業アンケート実施科目 (1 / 4 期科目) の確認について (4) 2024 年度前期学生 F D スタッフ報告書について (5) その他 ① 2024 年度後期授業アンケートに係るスケジュール確認について 2 議題 (1) 2025 年度 F D 事業推進予算に関する件 (2) その他
(第 6 回) 2024 (令和 6) 年 10 月 22 日 (火) メール会議	1 報告 (1) 2024 年度後期授業アンケート (実施科目確認) について (2) その他 2 議題 なし
(第 7 回) 2024 (令和 6) 年 11 月 26 日 (火) 17 : 00 ～ 17 : 22	1 報告 (1) 椋山女学園大学改革アクションプラン 2024 検証について (2) 2024 年度 F D 活動の検証 (中間検証) と 2025 年度計画について (3) 2025 年度新任教員研修計画について (4) その他 2 議題 (1) 2024 年度後期授業アンケートリフレクションに関する件 (2) 2024 年度「今年度の振り返り」と「来年度の目標」に関する件 (3) 2024 年度 F D 活動報告書に関する件 (4) その他
(第 8 回) 2025 (令和 7) 年 1 月 28 日 (火) ～ 2 月 1 日 (土) メール会議	1 報告 (1) その他 ① 各種日程の確認について 2 議題 (1) 2024 年度 F D 活動の検証と 2025 年度の計画に関する件 (2) 2025 年度前期学生 F D スタッフ募集に関する件 (3) その他
(第 9 回) 2025 (令和 7) 年 3 月 21 日 (金) メール会議	1 報告 (1) 2024 年度後期授業アンケート結果について (2) 2024 年度「今年度の振り返り」と「来年度の目標」の入力結果について (3) 2024 年度後期学生 F D スタッフ成果報告書について (4) その他 2 議題 なし

【前期】

1. 実施概要

- ・実施期間：（1 / 4 期科目）2024年 5 月 22 日（水）～2024年 6 月 5 日（水）
（半期科目）2024年 7 月 16 日（火）～2024年 7 月 31 日（水）
- ・実施対象科目：
 - ◎専任教員
2024年度前期開講の授業科目のうち、卒業研究、受講者数が10名未満の科目を除く全ての授業科目から、できるだけ受講者の多い科目を原則 2 科目選択
 - ◎非常勤教員
2024年度前期開講の授業科目のうち、集中講義など、実施期間までに授業が完了しない科目を除いた全科目
- ・実施方法：Webによる

2. 実施科目数及び実施率

学 部		対 象 科目数	実 施 科目数	実施率	未実施 科目数
教	養 教 育 科 目	186	158	84.9%	28
専 門 教 育 科 目	生 活 科 学 部	104	97	93.3%	7
	外 国 語 学 部 国際コミュニケーション学部	132	104	78.8%	28
	人 間 関 係 学 部	73	65	89.0%	8
	情 報 社 会 学 部 文 化 情 報 学 部	99	78	78.8%	21
	現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	59	43	72.9%	16
	教 育 学 部	103	94	91.3%	9
	看 護 学 部	45	42	93.3%	3
	教 職 共 通	7	6	85.7%	1
計		808	687	85.0%	121

※「未実施科目数」= 回答率が0.0%の科目

※参考：2023年度前期授業アンケート実施率（Webで実施） 80.4%（662/823科目）

※授業がアンケート実施前に終了する科目、担当者が交代した科目等は対象科目から外した。

3. 総合的充実度（設問12）回答

「設問12 総合的にみてこの授業は充実していた。」

学 部		そのとおりである	どちらかといえば そのとおりである	どちらかといえば そうではない	そうではない
教 養 教 育 科 目		77.2%	17.9%	2.0%	0.3%
専 門 教 育 科 目	生 活 科 学 部	68.7%	22.7%	3.1%	2.2%
	外 国 語 学 部 国際コミュニケーション学部	79.9%	15.1%	1.0%	0.7%
	人 間 関 係 学 部	77.5%	17.3%	2.2%	0.8%
	情 報 社 会 学 部 文 化 情 報 学 部	70.0%	23.5%	2.2%	2.6%
	現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	72.4%	23.6%	1.9%	0.6%
	教 育 学 部	80.0%	12.5%	2.4%	1.0%
	看 護 学 部	72.3%	17.8%	4.6%	3.2%
	教 職 共 通	73.8%	24.6%	0.5%	0.0%
大 学 全 体		74.6%	19.4%	2.2%	1.3%

4. リフレクションの提出状況

学部別提出率

学 部		アンケート 実施科目数	リフレクション 提出科目数	リフレクション 提出率
教 養 教 育 科 目		158	108	68.4%
専 門 教 育 科 目	生 活 科 学 部	97	76	78.4%
	外 国 語 学 部 国際コミュニケーション学部	104	61	58.7%
	人 間 関 係 学 部	65	46	70.8%
	情 報 社 会 学 部 文 化 情 報 学 部	78	46	59.0%
	現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	43	37	86.0%
	教 育 学 部	94	56	59.6%
	看 護 学 部	42	24	57.1%
	教 職 共 通 開 講	6	4	66.7%
大学全体 (昨年度前期実績)		687 (662)	458 (475)	66.7% (71.8%)

※10月末に集計結果及びリフレクションの学内開示（S*mapのキャビネット）

【後期】

1. 実施概要

- ・実施期間：（1 / 4 期科目）2024年11月11日（月）～2024年11月22日（金）
（半期科目） 2025年1月6日（月）～2025年1月25日（土）
- ・実施対象科目：
 - ◎専任教員
2024年度後期開講の授業科目のうち、卒業研究、受講者数が10名未満の科目を除く全ての授業科目から、できるだけ受講者の多い科目を原則 2 科目選択
 - ◎非常勤教員
2024年度後期開講の授業科目のうち、集中講義など、実施期間までに授業が完了しない科目を除いた全科目
- ・実施方法：Webによる

2. 実施科目数及び実施率

学 部		対象科目数	実施科目数	実施率	未実施科目数
教 養 教 育 科 目		145	121	83.4%	24
専 門 教 育 科 目	生 活 科 学 部	117	96	82.1%	21
	外 国 語 学 部 国際コミュニケーション学部	155	106	68.4%	49
	人 間 関 係 学 部	77	64	83.1%	13
	情 報 社 会 学 部 文 化 情 報 学 部	105	76	72.4%	29
	現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	58	43	74.1%	15
	教 育 学 部	93	75	80.6%	18
	看 護 学 部	29	19	65.5%	10
	教 職 共 通	9	5	55.6%	4
計		788	605	76.8%	183

※「未実施科目数」＝回答率が0.0%の科目

※参考：2023年度後期授業アンケート実施率（Webで実施） 74.0%（590/797科目）

※授業がアンケート実施前に終了する科目、担当者が交代した科目等は、対象科目から外した。

3. 総合的充実度（設問12）回答

「設問12 総合的にみてこの授業は充実していた。」

学 部		そのとおりである	どちらかといえば そのとおりである	どちらかといえば そうではない	そうではない
教 養 教 育 科 目		71.8%	19.9%	3.2%	0.9%
専 門 教 育 科 目	生 活 科 学 部	73.6%	20.5%	1.9%	0.8%
	外 国 語 学 部 国際コミュニケーション学部	79.5%	15.8%	2.6%	0.4%
	人 間 関 係 学 部	76.4%	19.2%	1.6%	0.1%
	情 報 社 会 学 部 文 化 情 報 学 部	68.0%	25.6%	2.3%	1.4%
	現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	73.4%	21.2%	2.2%	1.4%
	教 育 学 部	83.1%	12.7%	1.5%	0.4%
	看 護 学 部	81.3%	13.9%	1.2%	0.7%
	教 職 共 通	60.2%	31.5%	0.8%	0.0%
大 学 全 体		74.1%	20.0%	1.9%	0.7%

4. リフレクションの提出状況

学部別提出率

学 部		アンケート 実施科目数	リフレクション 提出科目数	リフレクション 提出率
教 養 教 育 科 目		121	83	68.6%
専 門 教 育 科 目	生 活 科 学 部	96	70	72.9%
	外 国 語 学 部 国際コミュニケーション学部	106	71	67.0%
	人 間 関 係 学 部	64	42	65.6%
	情 報 社 会 学 部 文 化 情 報 学 部	76	61	80.3%
	現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	43	35	81.4%
	教 育 学 部	75	57	76.0%
	看 護 学 部	19	14	73.7%
	教 職 共 通 開 講	5	3	60.0%
大学全体 (昨年度前期実績)		605 (590)	436 (440)	72.1% (74.6%)

※ 3 月末に集計結果及びリフレクションの学内開示（S*mapのキャビネット）

2024年度（前期）授業アンケート結果

1. 実施の目的

学生による授業アンケートは、授業が学生にどのように受け止められているのかの全体的傾向を理解し、教員に対して授業の質的向上のヒントを提供することを目的とする。また、学部・学科及び大学全体としてのカリキュラムレベルでのFDを推進するための資料として活用する。

2. 実施時期

実施期間：(1/4期科目) 2024年5月22日(水)～6月5日(水)
(半期科目) 2024年7月16日(火)～7月31日(水)

3. 実施方法

Webによる

4. 実施科目数

学部等	2024年度前期	(参考)2023年度前期
教養教育科目	158	143
生活科学部	97	97
外国語学部・国際コミュニケーション学部	104	102
人間関係学部	65	67
情報社会学部・文化情報学部	78	65
現代マネジメント学部	43	40
教育学部	94	101
看護学部	42	35
教職共通開講	6	12
大学全体	687	662

<凡例(学部)>

生活＝生活科学部

国際＝国際コミュニケーション学部

外・国＝外国語学部(2024年度改組)・国際コミュニケーション学部

人間＝人間関係学部

(2024年度以降は改組した人間共生学科を含む。)

文情＝文化情報学部

情・文＝情報社会学部(2024年度改組)・文化情報学部

現マ＝現代マネジメント学部

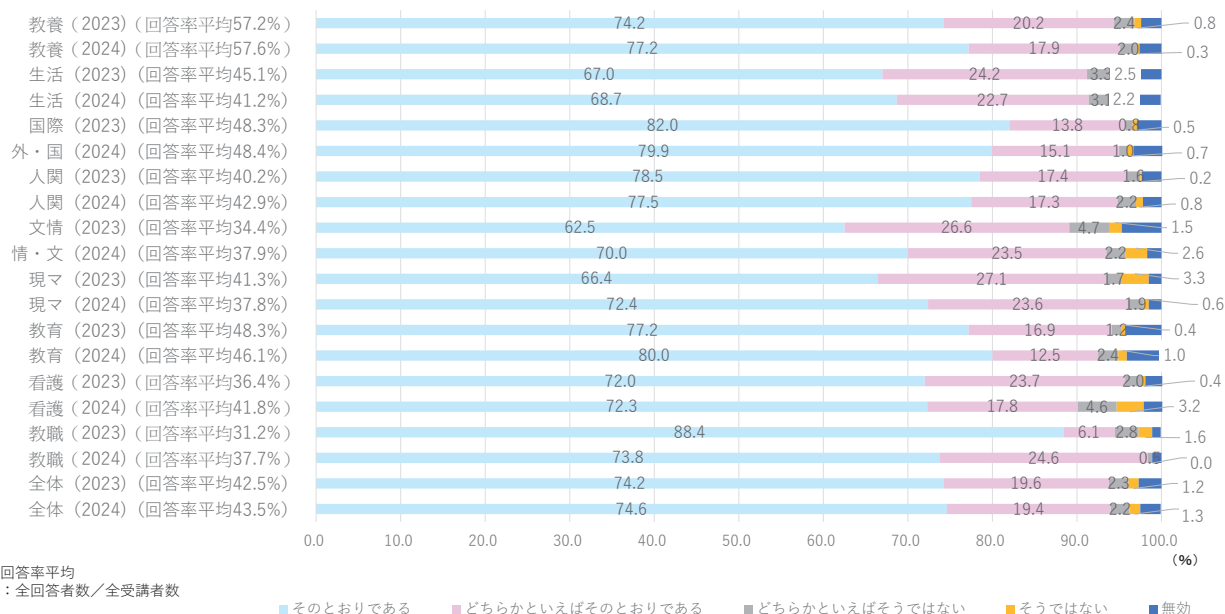
教育＝教育学部

看護＝看護学部

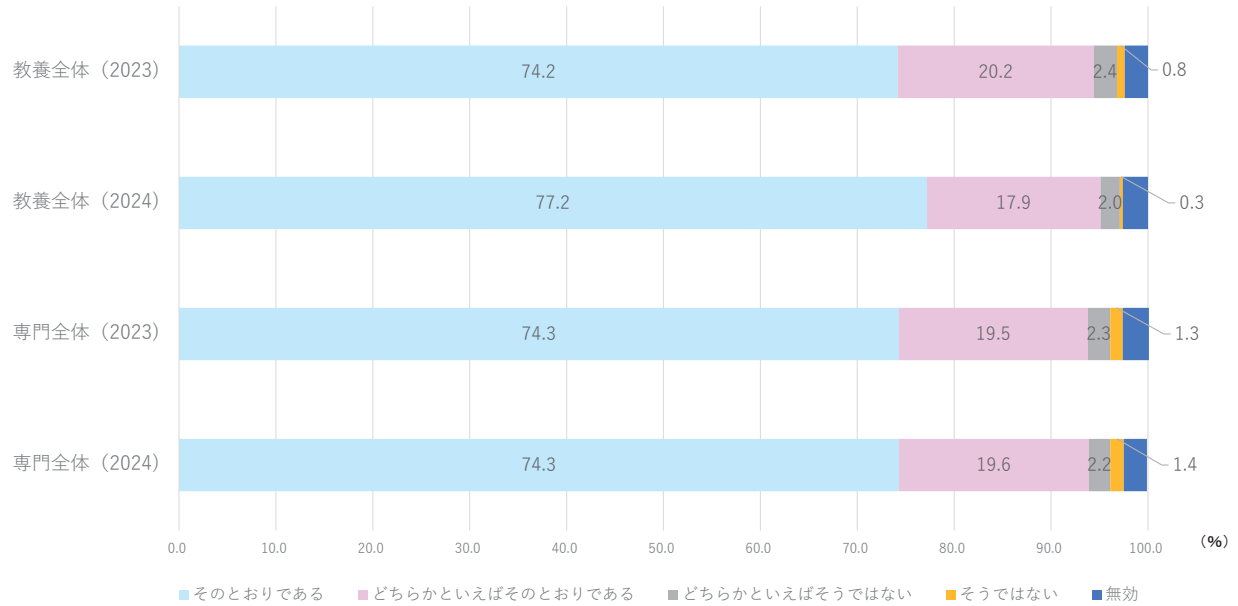
※2023年度から、教養教育科目は、開講学部によらず、すべて「教養教育科目」区分で集計。

集計・分析結果

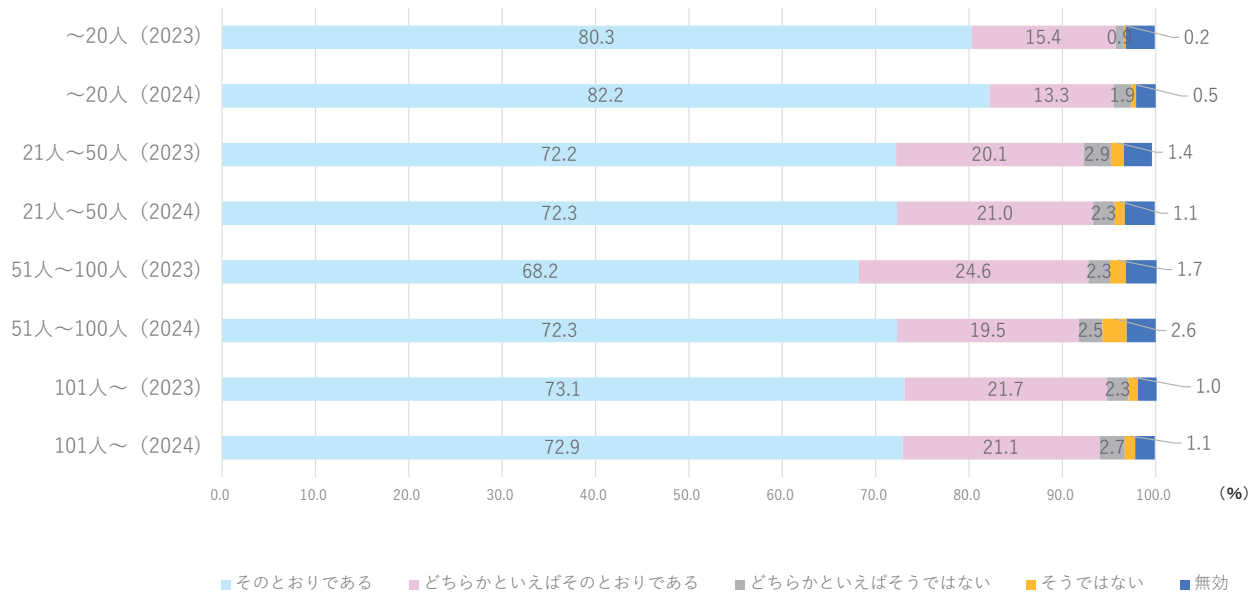
総合充実度（全体）



総合充実度（教養・専門別）



総合充実度（受講者数別）



2024年度（後期）授業アンケート結果

1. 実施の目的

学生による授業アンケートは、授業が学生にどのように受け止められているのかの全体的傾向を理解し、教員に対して授業の質的向上のヒントを提供することを目的とする。また、学部・学科及び大学全体としてのカリキュラムレベルでのFDを推進するための資料として活用する。

2. 実施時期

実施期間：(1/4期科目)2024年11月11日(月)～2024年11月22日(金)
(半期科目)2025年1月6日(月)～2025年1月25日(土)

3. 実施方法

Webによる

4. 実施科目数

学部等	2024年度後期	(参考)2023年度後期
教養教育科目	121	129
生活科学部	96	98
外国語学部・国際コミュニケーション学部	106	85
人間関係学部	64	67
情報社会学部・文化情報学部	76	75
現代マネジメント学部	43	38
教育学部	75	69
看護学部	19	22
教職共通開講	5	7
大学全体	605	590

<凡例(学部)>

生活＝生活科学部

国際＝国際コミュニケーション学部

外・国＝外国語学部(2024年度改組)・国際コミュニケーション学部

人間＝人間関係学部

(2024年度以降は改組した人間共生学科を含む。)

文情＝文化情報学部

情・文＝情報社会学部(2024年度改組)・文化情報学部

現マ＝現代マネジメント学部

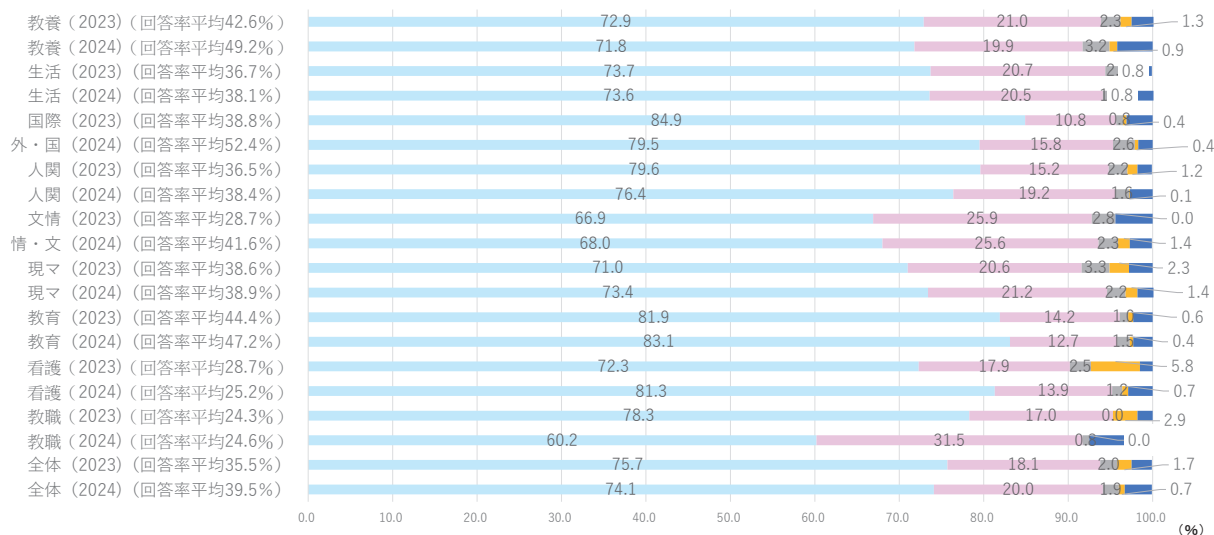
教育＝教育学部

看護＝看護学部

※2023年度から、教養教育科目は、開講学部によらず、すべて「教養教育科目」区分で集計。

集計・分析結果

総合充実度（全体）

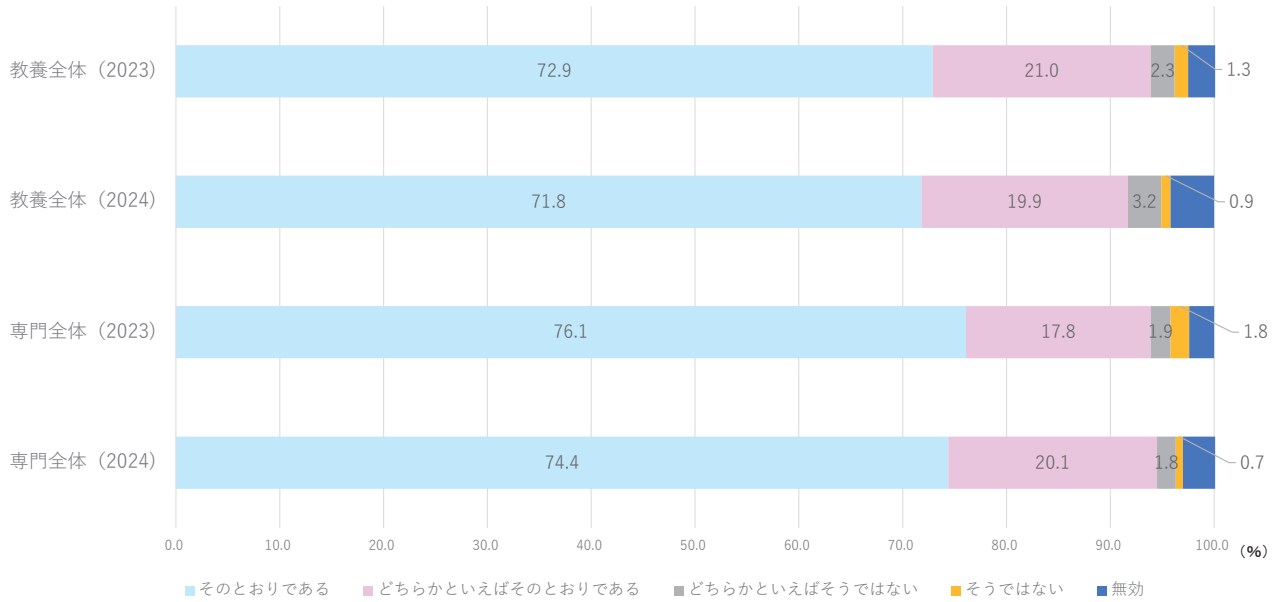


※回答率平均

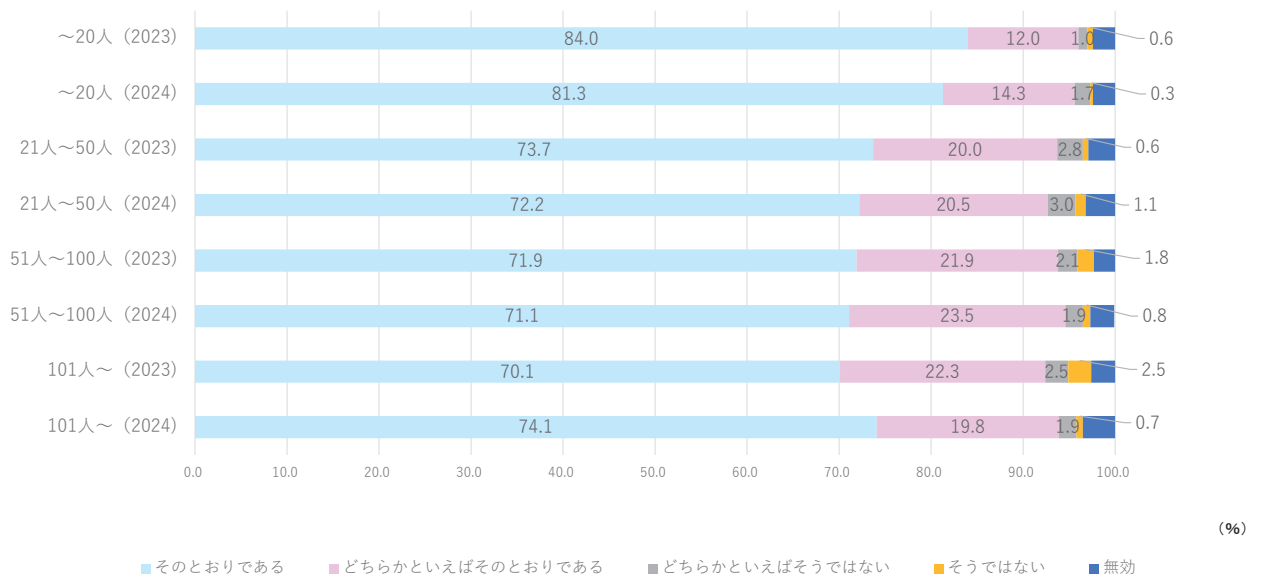
：全回答者数/全受講者数

■ そのとおりである ■ どちらかといえばそのとおりである ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない ■ 無効

総合充実度（教養・専門別）



総合充実度（受講者数別）



1. FD研修会

- ・日時：2024年9月3日（火） 10:30～11:30
- ・場所：Zoomウェビナーでのオンライン開催
- ・テーマ：Sugi-PORTの活用について
- ・講師：株式会社SIGEL 代表取締役 鈴鹿健治氏
- ・参加者数（オンデマンド視聴を含む。）：

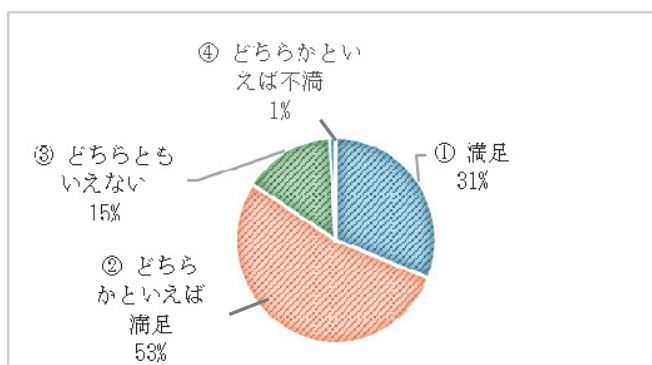
生活	外語	人関	情社	現マ	教育	看護	合計
29名 (93.5%)	24名 (96.0%)	27名 (100%)	29名 (100%)	23名 (92.0%)	29名 (93.5%)	28名 (90.3%)	189名 (95.0%)

※その他：生活助手 9、看護助手14、事務当日参加（医務室含む。）57、生活助手オンデマンド 1、合計270名

《アンケート集計結果（当日参加者）》

Q. 今回の研修会について全体としての満足度をお答えください。 (名)

①満足	②どちらかといえば満足	③どちらともいえない	④どちらかといえば不満	⑤不満
59	101	28	2	0



2. 新任教員研修（学外）

- ・内容：内容：公益財団法人大学コンソーシアム京都主催「FD合同研修プログラム・テーマ別研修」
- ・参加者：生活科学部 2 名、外国語学部 2 名、情報社会学部 1 名、現代マネジメント学部 3 名、教育学部 1 名

プログラム等	開催日時	参加人数
【動画配信】FDの基礎知識	2024年9月3日（火）～ 2025年3月末	3名
第1回 社会への入り口としての大学教育～PBL教育の可能性	2024年9月19日（木） 18:30～20:30	1名
第2回 生成AI技術を導入した大学授業の最前線レポート	2024年10月17日（木） 18:30～20:30	5名

3 学部FD活動報告

- 3－1 生活科学部
- 3－2 外国語学部
- 3－3 人間関係学部
- 3－4 情報社会学部
- 3－5 現代マネジメント学部
- 3－6 教育学部
- 3－7 看護学部

生活科学部FD委員

(管理栄養学科) 及川佐枝子、門屋亨介

(生活環境デザイン学科) 井澤 幸、高橋里佳

(学部長・オブザーバー) 藏澄美仁

【1】活動計画（本年度の活動内容および活動目標）

- ①全学で実施される前期および後期授業アンケートの学生からの回答率を高め、全教員にリフレクションペーパーの記載を依頼する。授業アンケートの結果を基に、全教員がリフレクションペーパーの記載を通し、授業内容の改善を図る。
- ②1年生のコンピテンシーテストの結果分析を学科ごとにベネッセから報告してもらい、注目すべき点などのレクチャーを受ける。コンピテンシーテストの結果を学部・学科内で共有し、個々の授業内容の改善やカリキュラムの改定に活用する。
- ③本年度から導入されたSugi-PORTを活用し、1 - 4年の学生との個人面談の結果から、学生の学修成果を分析する。学生の学修状況から抽出された課題を学部・学科内で共有し、教育活動の改善につなげる。
- ④全学FD研修会への全教員の参加を促す。各教員の教育の質を向上させる。

【2】FD活動の実施報告

①委員会の開催

委員会は2024年4月～2025年3月の間、主にメール会議にて適宜実施した。協議事項は、FD活動計画、活動目標の達成度および授業評価の見直しである。

<協議事項>

- ・学部FD活動計画を確認。
- ・昨年と同様に授業アンケートはwebで実施。実施要領とリフレクションを確認。

②2024年度に企画・実施されたFD活動

- ・4月 1年生を対象にコンピテンシーテストを実施した。実施率100%（管理栄養学科・生活環境デザイン学科）。
- ・5月 1年生を対象にコンピテンシーテストの結果活用ガイダンスをゼミごとに実施した。参加率は、管理栄養学科は100%、生活環境デザイン学科は91.4%であった。欠席者には個別に結果を配布した。
- ・5月 主に3年生を対象としたOG懇談会開催した。社会人として活躍している本学卒業生と学生の交流を通して、教員の教育技法の改善につなげる。併せて学生は就職を中心に、将来の方向性の決定に役立てることで教育環境の整備につながった（管理栄養学科）。
- ・7月 ベネッセによる1年生のコンピテンシーテスト集計結果に関する教員向けの結果概要説明会を開催した。参加率は、管理栄養学科は約90%、生活環境デザイン学科は81.3%であった。その後、生活・学習指導教員が個別面談を行った。（管理栄養学科・生活環境デザイン学科）。
- ・7月 前期授業アンケート実施（全学）
- ・7月 教員の教育技法の改善につなげるため、国家試験に精通したプロフェッショナルによる国家試験受験のための心構え、および模擬授業を実施（管理栄養学科）。
- ・9月 FD研修会（全学）
- ・9～10月 3年生を対象にコンピテンシーテストを実施した。管理栄養学科はクラスごとで実施し、実施率は100%であった。生活環境デザイン学科はゼミごとで実施し、実施率は97.9%であった。
- ・10～11月 3年生を対象に、ゼミごとにコンピテンシーテストの結果活用ガイダンスを実施した（管

理栄養学科・生活環境デザイン学科)。

- ・10～12月 3年生を対象に、ゼミごとにコンピテンシーテストの結果を踏まえた個人面談を、Sugi-PORTを活用して実施した(休学者を除く)(管理栄養学科・生活環境デザイン学科)。
- ・10～11月 2、4年生を対象に生活・学習指導教員がSugi-PORTを活用した個別面談を実施した。(管理栄養学科・生活環境デザイン学科)
- ・4、9月 授業課題が大変であるという学生からの指摘を受け、課題の提出時期を一覧にまとめて、教員間でも調整を図ったうえで、学期ごとに学生に公表した(生活環境デザイン学科)。
- ・12月～2025年1月 後期授業アンケート実施(全学)
- ・2025年1月 ベネッセによる3年生のコンピテンシーテスト集計結果に関する教員向けの結果概要説明会を開催した。参加率は、管理栄養学科は約60%、生活環境デザイン学科は88.2%であった。その後、生活・学習指導教員が個別面談を行った(管理栄養学科・生活環境デザイン学科)。
- ・2025年2月～2025年3月 「今年度の振り返り」と「来年度の目標アンケート」の実施(全学)
- ・2025年3月 卒業式当日に、資格取得や授業内容についてのアンケートを行い、その結果の次年度の学科運営に活用する資料として学科内で共有した(生活環境デザイン学科)。

【3】活動計画の検証(評価点および課題点)

活動計画①については、学生に実施した授業アンケートの実施率は、前期は93.3%(昨年77.8%)、全学85.0%、後期は82.1%(昨年85.2%)、全学76.8%であり、前期は昨年度に比べ大幅に増加したが、後期は前期に比べ、また昨年度に比べ若干減少していた。具体的な「授業アンケート」の設問のうち、専門教育における総合充実度は、「どちらかといえばそうである」以上の肯定意見が学部全体として前期91.4%(昨年91.2%)、後期94.1%(昨年94.4%)で昨年と同程度であった。しかし、肯定意見の回答率が低い授業もみられるため、今後も教員の個人あるいはグループ単位で更なる改良を試みることが求められる。学生のアンケート回答率に関しては低い傾向であり、学生に対して各教員からも強めにアンケート実施の呼びかけを行っているが、Webでの実施であることから学生任せになるため、入力を忘れたり送信ミス等でカウントされなかったりしたことも考えられる。Webでのアンケートではなく、以前行っていたような授業時間内に対面で回答紙を用いて行うなど、全学的にも回答率を高める工夫を検討する必要があると考えられる。

また、教員のリフレクションペーパーの提出率は、前期78.4%(昨年70.6%)、後期72.9%(昨年85.7%)であり、前期は昨年度より増加したが後期は減少したため、次年度は教員に複数回の呼びかけなどを行い、100%を目指したい。

活動計画②については、新入生および3年生を対象に実施したコンピテンシーテストの結果を基に、ベネッセからの情報提供を参考に、両学科ともに個人面談を行った。本年度から全学でSugi-PORTが導入され、本テストの結果もSugi-PORTのシステムに組み込まれたため、Sugi-PORTを使用した面談となった。Sugi-PORTと連動したことにより、成績と「態度・姿勢」等の可視化しづらい部分を一体で指導できるようになった。2023年度に、新たに学修成果に関する学科独自のアンケートをコンピテンシーテストに追加したが、それに回答した1年生が来年度3年生として受検するため、来年度には1年次から3年次にかけての学修成果について確認することができる。また活動計画③では、全学年を対象に、本年度から導入されたSugi-PORTを活用し個人面談を行った。学生一人ひとりに面談を行った結果、学生の学修状況の傾向をある程度確認することができた。学生全員に対する面談は教員にとって負担にはなるが、個々の状況が把握できれば、学部・学科内で学生の状況を共有し、授業内容の改善やカリキュラムの改定に繋げる事ができる。ただし学年により面談の時期が遅いなど課題が見つかったため、今後は実施時期を見直し、さらに希望者に時間をかけて面談を行うことで個別性を重視するなど、検討していく予定である。適切に運用することで、今後の教育活動の改善につなげていく事が可能となる。

活動計画④については、全教員に向けて積極的にFD研修などへの参加の呼びかけを行った。9月に実

施したFD研修会の出席率は93.5 % (31名中29名参加) で全学95.0 %平均と同程度の出席率であった。参加の呼びかけを行ってきた成果といえるものの、今後も継続して参加の呼びかけ、次年度こそは全員参加を目指す。

【4】次年度へ向けた計画

FD活動を積極的に推進し、意義あるものにするために、今年度の活動計画の実施における反省から、

- ①学生による授業アンケート回答率を上げるため、より強く声かけが必要であろう。また、授業アンケートに対する教員のリフレクションペーパーについても、引き続き全員提出をめざし、これまで以上に声かけが必要であろう。
- ②昨年度から開始されたコンピテンシーテストを活用した学生との個人面談は、Sugi-PORTの導入により可視化も可能になった。コンピテンシーテストの結果から、1年次から3年次にかけて経時的に学修成果を確認していくが、それをどのように活用していくのか、学部・学科において将来構想委員等を交えて十分議論する必要があると考える。
- ③本年度より導入されたSugi-PORTにより個人面談が実施されたが、Sugi-PORTの使用方法や利点について、学生があまり理解できていなかったため、十分な説明をする必要がある。今後は、面談の時期も合わせ、効果的な活用方法を検討し、教育活動の改善に繋げていく。そのためには、面談終了後に結果を教員間で共有し、課題等を確認する機会をあらかじめ設けておく必要がある。
- ④全学でのFD研修会は、今年度の参加率も昨年同様に高かったが、100%には至っておらず、今後も積極的な学部教員の参加を促していくことが重要である。また、学外で実施されるFD研修会の案内も積極的に行っていく。

結論として、FD活動の活性化を促すために、学生による授業アンケートおよび、教員のリフレクションペーパーの回答率を上げる工夫をすること、Sugi-PORTを有効に教育活動に活用できるよう教員からの提案を促し、効果的な活用方法を共有し取り入れること、さらに現在実施されているFD活動への積極的な参加を促すように今後も学部教員に積極的に呼びかけていくことが重要と考える。

【1】活動計画（目標）

- ・本年度から外国語学部が発足し、全学的にSugi-portを活用した学生指導が始まったことを受けて、本年度のFD活動ではSugi-portを用いた学生指導について各教員がふり返し、その結果を文章にまとめて全教員に共有したうえで議論の場を設け、新しい指導システムについて現状把握と課題整理を行うことを目標とする。
- ・Sugi-portを活用した学生指導では、GPS-Academic、前期の成績、学生による振り返りコメントをもとに学修生活指導学生に対して面談を行い、学修達成度をディプロマポリシーに照らし合わせ自己評価してもらうので、その指導をもとにしたディプロマポリシーの点検を行う。

【2】Sugi-portを活用した学生指導の情報共有と課題の把握**1. 学生指導とその振り返りの年間スケジュール**

Sugi-portを用いた学生指導は以下のスケジュールで進んだ。前期成績発表の1週間前に教務課より学生宛に「Sugi-PORTへの振り返りコメント記入促進メール」、9月2日には教員宛に「Sugi-PORTを活用した学生面談実施と面談後のコメント入力依頼」メールをそれぞれ配信した。同時に学部FD委員から学修生活指導教員宛てに「指導生へのコメント記入催促」「学生面談実施と面談後のコメント入力依頼」をおこなった。10月～11月には各教員が1年生～4年生まですべての学年に面談を実施し、面談後のコメント入力をおこなった。12月までに、各教員は以上の指導プロセスをふり返って、初年度のSugi-portを用いた学生指導について状況と課題を報告する文章を作成し、FD委員に提出した。2025年1月、FD委員が各教員の振り返りレポートをもとに論点整理をおこない、全教員に共有した。2～3月、学科ごとにこの論点整理をもとに指導の現状と改善策について意見を交換した。

2. 学生指導の状況と課題

各教員のふり返りと、それをもとにした会議での議論の概要は以下の通りである。

・Sugi-portを活用した学生指導のメリット

- (1) Sugi-portは、学生自身が目標を可視化して日々の学習に取り組むことができるメリットがある。特に、GPAを上げることや資格取得を目指している1～2年生や就職活動に熱心に取り組んでいる3～4年生にとっては、現在の状況を自身で確かめたり教員と情報を共有したりすることで、モチベーションを上げる効果が期待された（実際に面談では「GPAを○ポイント上げたい」「次は仏検2級を目指したい」という目標について語る学生がいた）。さらに、課外活動や部活など、大学生活全般について学生が記録して振り返りを行える内容になっているところも良い。
- (2) 自己分析が就職活動で求められるが、現実を見れば、3年生の夏以降になって慌てて取り組む傾向がある。Sugi-Portは、1年生のうちから将来な目標を立て、そのためにどんな経験をし、どのような能力を身につけたらよいのかを意識させられる仕組みになっているところが優れたシステムである。
- (3) 入力に先立ち実施した個別面談は、学生との直接的な対話を通じて学修の進捗や生活面での課題を共有し、適切な支援につなげる貴重な機会となった。特に1年生と3年生については、普段からゼミで交流のある学生たちのため、より深い学生理解につながった。

・学生指導の課題

- (1) 教員と学生、とりわけ学生に対する事前の案内や説明が必ずしも十分ではなかった。操作方法が分からない等の初歩的な質問を受けたりすることもあった。何を書いて良いのか分からず、「継続は力なり」、「反

省はしても後悔はしない」のような、半期の目標としては適切とはいいいがたい記述がほとんどであった。

(2) 学生がなかなかSugi-Portに入力しない。書き込んだのは2割程度であった。「特に記入することがない」という学生や「Sugi-portのような試みを既に自身のノートなどに書いて行っている」と考える学生もいた。新入生のみ、記入した者の割合が高かった。

(3) 性質上、教員からのコメントもどうしても画一的なものにならざるを得ない部分がある。

(4) 4学年の学生に対して面談時間を確保することはかなり困難である。

(5) 2年生と4年生など、ゼミで顔を合わせない学生との相談が難しい。

(6) 4年間の成長を前提とした面談、指導なので、3年生、4年生で初実施の学生に意義を説明するのが難しい。

(7) 記入を前提とした面談では、かえって実りある相談が妨げられる。

(8) 学業成績が悪いのであれば改善の仕方は考えられるが、汎用能力テストの思考力で低い数値が出た場合、どうすれば自分の能力を改善、成長させられるのか、学生自身にも具体策がわからない。

・学生指導についての改善案・提案

(1) Sugi-portに出席率、配慮願いの有無、課題提出状況などの情報が追加されると、就学状況の把握が容易になり、指導がより実質的になるのではないか。

(2) 4年間のロードマップ(たとえば留学やインターン)を計画としてSugi-portに書き込むことができれば、学生が自分の頭の中を整理して4年間の道のりをイメージすることが容易になるのではないか。

(3) 学生がなかなかSugi-Portに入力しないため、大学入学時よりSugi-portを用いた学生指導がどのような目的でおこなわれているのかを理解させるため、教員に対して実施したような説明会を学生に対しても実施する。

(4) 面談を実施する学年については、特定の学年に絞るなど見直しを検討することで、より効果的な支援が可能になるかもしれない。

(5) 面談の時期を柔軟化する。新入生は、大学生活への適応などの観点から、前期に行ったほうが効果的である。

以上のような意見をふまえ、今後新入生のオリエンテーション内、あるいは4月上旬に行われるその他の新入生が全員参加するイベント内で、Sugi-portの活用方法に関する説明を行うことを検討することになった。

【3】学生指導をふまえたディプロマポリシーの点検と課題の明確化

GPS-Academicでは、思考力、姿勢・態度、経験について学生の回答をスコア化している。本学部の学生は、経験(自己管理、対人関係、計画実行)のスコアが相対的に高く、全国平均をわずかに上回っているが、姿勢・態度(レジリエンス、リーダーシップ、コラボレーション)と思考力(批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力)のスコアは低く、全国平均と比べると思考力がとりわけ低い。思考力のスコアのなかでは、批判的思考力>創造的思考力>協働的思考力の順となる。

ディプロマポリシーに対応させると、批判的思考力は「地球規模の課題解決のための思考力・判断力」、協働的思考力は「異なる文化や価値観をもった他者と協働し問題解決をおこなうための力」、創造的思考力は「他者と協働し価値創造に取り組む力、および外国語の実践的運用能力を用いた発信力」になる。しかし、このポリシーそれぞれがカリキュラムや個々の授業とどう対応しているのか、明確ではない。

上述したように、思考力のスコアを知るだけでは、学生にとっては自己の学びをどう改善すればいいか、具体的な改善策につながらない。教員が個別に学生と面談することで、これらの思考力を育成できる授業を学生に伝え、それぞれの学びに対する方向づけをすることが求められるため、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーをその目的に対応するように改定する必要があることがわかった。

【4】次年度に向けた計画

Sugi-portを用いた学生指導は始まったばかりで、その有効性は新入生にしか伝わっていない。その意味で、引き続きこの指導の意義について上記の改善策に則り学生に周知を図る体制を構築する。そして、

学生の学習達成度をより具体的に確認するところから Sugi-port を用いた学生指導をより実質的なものにする。さらに、ディプロマポリシーならびにカリキュラムポリシーの検証と改定をおこなっていく。

【1】活動報告

2024年度、人間関係学部では以下のテーマ、資料に基づき、FD活動を行った。実施形態は、各学科とも5回（うち2回は2学科共通）にわたって意見交換を行った。

テーマ：

- 1.2024年度から始まる「Sugi-PORTに基づく面談（1～4年）」の総括を、学科ごとに行う。
- 2.GPS-Academicの結果について、ベネッセiキャリア担当者から人間関係学部教員に説明して頂き、情報共有を行う。

※ともに今後の学生指導の方法について自由に話し合う。

1. 心理学科FD意見交換会

第1回は本会の趣旨について説明、第2、3回はテーマについて自由に意見・感想等を出し合う、第4回はGPS-Academicの結果について、外部講師（ベネッセiキャリア）からの説明と質疑応答、第5回はそれを踏まえてさらに深く意見を交換するという趣旨で開催した。なお第5回は短時間であったため、メール会議も併用し、期間延長して追加意見を募った。

開催日

- | | | | |
|-----|---------------|------------------|---------|
| 第1回 | 2024年10月1日（火） | 学科会議後（趣旨説明と意見交換） | 参加者：13名 |
| 第2回 | 2024年12月3日（火） | 学科会議後（意見交換） | 参加者：13名 |
| 第3回 | 2025年1月7日（火） | 学科会議後（意見交換） | 参加者：12名 |

人間共生学科と合同開催

- | | | | |
|-----|---------------|----------------------------|---------|
| 第4回 | 2025年1月28日（火） | ベネッセiキャリア担当者からの説明 | 参加者：19名 |
| 第5回 | 2025年1月28日（火） | 第4回終了後すぐ および1/31（金）まで意見受付。 | 参加者：19名 |

第1回の意見概要

第1回時点で、1年生に対するSugi-PORTを活用した面談を実施済であった。従って、趣旨と予定説明に加え、以下の意見が出された。

- ・後期授業がはじまっていないため、学生の来学が少なく、実施時期が早い可能性がある。
- ・1年生であるため、各ツール（S*map、メールなど）の使用に慣れておらず連絡が難しい。
- ・当日連絡なく、面談を欠席する学生や連絡がつかない学生の対応が難しい。1年生のフォローについても今後検討が必要である。

第2回の意見概要

第2回は、Sugi-PORTの使用やマニュアルの必要性について議論がなされた。

- ・面接の際に、ワークシートを忘れた人や目標の欄が未記入の人もみられた。特に1年生は難しい人も多いよう。入力の方法について、短期目標、長期目標の数値化や一貫性などについて教えるとよいかもしれない。

- ・前期の目標のふりかえりは行えたが、後期の目標欄が記入されていないケースがある。
学生タイムスケジュールをふまえ、S*mapで喚起することが必要かもしれない。
- ・就活を含めた進路相談も短時間だが行われ、非常によい機会だったと思う。
- ・共にGPAを振り返る作業は意味あったと思われる。
- ・GPAとあわせて、アルバイトやボランティアの欄をふまえて指導できると、就職につながる本人の強みを指導しやすい。この重要性もあわせてガイダンスで伝えられるとよい。
- ・3年生については、GPS-Academicの画面がうつらないことが仕様の問題としてあった。
- ・面談の日程調整やスムーズに連絡がとれない学生への対応など、教員の事務的負担も大きい。面談の時間も必然的に昼休みでしか対応できないことも多い。
- ・次年度は各学年の面接実施時期について検討する必要がある。
- ・Sugi-PORTの操作方法に関するマニュアルが今後作成され、新入生オリエンテーションで学生に説明されると丁寧でよい。

第3回の意見概要

第3回については、次年度の効果的な面談実施時期について検討が行われた。

- ・教員からの連絡に対してリアクションがない学生への検討が必要。教員の負担を踏まえ、検討していく必要がある。
- ・次年度は、3年生は事前指導ゼミの学生が面談対象となることを確認。1、3年生は同じ今年と同じスケジュールで、2、4年生の実施は慎重に検討すべき。
- ・2、4年生に対しては、面談を実施しない場合もコメントを書く方が望ましい。その際、教員はプルダウンメニューの操作でコメントができると非常に便利。
- ・Sugi-PORTによる面談をキャリア指導にどう生かすか。GPS-Academicの内容だけでなく、講習会の参加、エントリーシートの記入、就職活動の実績掲載など、キャリア支援課（キャリア育成センター）との連携も必要。
- ・S*mapとSugi-PORTなど、教務システムが別々になっていることが使いにくい。S*mapの導入は他大学と比べ、早かったものの、他のシステムとの統合の問題が今後の課題。
- ・全体としては4年間をかけて修正を重ねて適切な形ができるとよい。

第4回の意見概要

外部講師による講演を踏まえ、質疑応答の意見を記載する。

講演要約

- ・数的処理の低下は全国トレンドにあり、年々下がってきている。
- ・心理学科は思考力、人間共生学科はリーダーシップが高い傾向。
- ・心理学科は大学志望度が高い。
- ・思考力は、1年次と比べ3年次に上昇する一方で、D（不合格）の多さが課題。
- ・「やりたいことが見つからない」学生への対応、経験をメタ認知する事の難しさ。

質疑応答

- ・女子大学の特徴：平均点などの各数値は、全国的に同様の傾向。
- ・数的処理の低下：年内入試の増加や高校教育との関連性。
- ・分野ごとの比較：心理学は社会科学分野での比較が望ましい。
- ・経験の獲得：近年はcovid-19による影響も関連している可能性。一方で、アルバイトだけでなく、各

- ・学科でのカリキュラムでは少人数授業や体験型の授業も多い。これらも当然経験には含まれるため、Sugi-PORTの個別面談などで、学生自身で言語化できるように指導していく仕組みが必要。
- ・実施時期による得点の影響：大学によって実施時期は異なり、考慮が必要。

第 5 回の意見概要

講演内容と講師との質疑応答をふまえ、様々な意見交換が行われた。

- ・今回の講演の内容について、速報のように早い段階で行い、Sugi-PORT面談に生かすことはできないか？
- ・3年生の結果については、面談よりもむしろ日々の学習指導で生かす方がよいかもしれない。
- ・大学への満足度は高いことについては、教員との関係性や女子大学の良さにも関連している可能性がある。従って数値の上昇だけではない側面も、学生が感じるメリットとして含まれている可能性がある。

2. 人間共生学科FD意見交換会

開催日

- | | | | |
|-------|--------------------|------------------------|----------|
| 第 1 回 | 2024 年 6 月 28 日（金） | 昼休みでの実施（基礎演習 A・B について） | 参加者：12 名 |
| 第 2 回 | 2024 年 12 月 3 日（火） | 学科会議後（趣旨説明と意見交換） | 参加者：12 名 |
| 第 3 回 | 2025 年 1 月 7 日（火） | 学科会議後（追加の意見募集） | 参加者：12 名 |

第 4、5 回は心理学科と合同開催のため、省略。

第 1 回の概要 基礎演習 A・B の指導方針の検討と内容確認、ほか意見交換を行った。

- ・2025 年度の基礎演習 A・B の指導内容の確認
教務委員・FD 委員の原案について異議なく承認された。
- ・基礎演習でも図書館ガイダンスを積極的に活用した方が良い。
- ・ノートパソコンはできるだけひとり 1 台持つのを推奨していることから、ファーストイヤーゼミや基礎演習で持参・利用を推奨するのが良い。
- その場で調べさせたり、モニターにつないで画面を共有したりなどできて有用。
- ・参考になりそうな書籍やウェブサイトなどの情報を共有したい。
例：中央大学ライティングラボ
- Google classroom に共有フォルダを作成
- ・引用の仕方の統一を図った方が良い？
- 基本的には教科書にしたがう。心理とそろえるのが難しいこともあり、完全に統一することはできないので、分野によって異なることをきちんと説明。
- ・担当者以外も、ファーストイヤーゼミと基礎演習の指導内容を把握し、教科書も持っておいた方が良い
- 事務課に確認する。

第 2 回の概要 本年度 F D の趣旨説明と意見交換を行った。

Sugi-PORT の活用について

- ・継続して指導にあたっていることから、学年が上がるにつれて成長の跡がみられている。詳細なデータがあるので具体的な話をしやすく有用である。
- ・記録を残すことで振り返りができる点は、教員・学生の双方にとって良い。面談時期だけ活用するので

はなく、日々の活動の記録を残す習慣をつけるように促したい。

- ・活用例として、社会福祉コースでは訪問実習の記録をまとめるのに活用している。詳細な記録で、社会福祉担当以外の教員にも学生の状況把握の参考になった。
- ・学生情報が共有されていると、学生の状況を把握しやすく、連携した指導をすることもできる。一方で、成績など個人情報をどこまで共有・アクセス可能にするかについては慎重な議論が必要である。
- ・積極的に活用できていない（面談の呼びかけへの反応も薄い）学生の対応が問題。使い方がよくわかっていない、どういうことを書いたら良いか理解できていない学生もいることから、ファーストイヤーゼミや基礎演習で解説する機会をもつ必要がある。
- ・上記について、とくに3年生前期に指導する場がない。3月の履修ガイダンスの機会を活用できないか。

GPS-academicについて

- ・3年生のデータが反映されていないので、早急に対応してほしい。
- ・スコアの読み方や試験の意味について十分に理解していない学生がいることから、教員・学生ともに、説明会などを通じてきちんと理解しておく必要がある。スコアが下がって落ち込む学生もみられ、そうした学生への説明や励ましの仕方が重要。

第3回の概要

第2回の内容を踏まえ、補足等を確認した。特段の追加意見は出されなかった。

総括

第1～5回を通じ、様々な有用な意見が出された。両学科共通して、1. Sugi-PORTを活用した面談の効果的な使用方法、2. 面談の適切な実施時期、3. S*mapとの統合性を含め、Sugi-PORTシステムを改善する必要性について、意見が出された。これらの意見をもとに、次年度の人間関係学部FD活動につなげたい。

【 1 】活動報告

情報社会学部は2024年4月に開設された、情報デザイン学科と現代社会学科からなる新学部である。現在、設置審下にあることから、4月から本学に着任され、前任校では計3期に亘り法人評価や認証評価に従事されると同時に、認証評価機関でも4年間、評価専門委員として評価チームに参画された栗本英和教授に依頼した。

FD研修の主題は、Part Iとして教育の質保証に関する話題提供、Part IIとして今年度から本学部に導入されたSugi-PORTの事例紹介の構成で実施した。

日時：2024年12月10日（火）15:30～17:00

講師：栗本英和（情報デザイン学科教授、名古屋大学未来社会創造機構特任教授）

実施方法：対面

対象：情報社会学部教員

<提供主題>

Part I：教育の質とは何か？

- ①論点整理
- ②内部質保証システム
- ③PDCA Management Cycle
- ④Total Quality Management

Part II：Sugi-PORTに関する対応事例

高所大所の観点から、教育学修現場の課題が体系的に整理されていたので、今まで遣らされ感が強かった教育の質保証に資する取組に対して、「何のために実施されているのか、その背景と考え方が理解できた。」「何が重要なキーワードで、その概念がわかった。」「教育活動におけるアウトプットとアウトカムの違いが認識できた。」「Sugi-PORTに実施における課題と特長がわかった。」などの意見が寄せられた。

【1】2024年度現代マネジメント学部FD活動**1. GPSコンピテンシーテスト結果報告**

現代マネジメント学部生に対し実施されたコンピテンシーテストに関し、前期にこれを受検した1年生の受検結果については2024年7月16日（第1回学部FD研修会）、後期に受検した3年生については2025年1月21日（第3回学部FD研修会）に、株式会社ベネッセキャリアより、分析結果と今後の活用方法の説明会が実施された。

2. 大学入試動向

第2回学部FD研修会として、2014年10月8日に株式会社KEIより近年の大学入試動向に関し講演が行われ本学部全員が参加した。

【2】2024年度現代マネジメント学部FD活動の振り返り

1年生のGPSコンピテンシーテスト結果については、次のような評価と示唆が得られた。

- ・「思考力」項目で全国平均点を上回る得点を上げている学生は、今後の学習効果に一層期待が持てる層と考えられる。学生とのフォローアップ面談では、「思考力」スコアを受検者の文章読解能力と紐づけることで、学生に対してより具体的な示唆を与えることができる。
- ・「学生意識調査」では、学生が大学選択の際に活用した情報源として「オープンキャンパス」、「高校の先生との面談や話」が上位を占めていること、学生生活における自主性、自由な科目選択を好む学生が多いこと、本学部に対する志望度の高かった学生が入学していることが明らかになった。

3年生のテスト結果からは次のような評価が示された。

- ・「思考力総合」のスコアが大きく上昇した学生の割合が増加している。こうした層では「難しいと思えることでも挑戦した」、「議論の場では何が課題で何を解決すべきかを明らかにするようにした」という問いに対し肯定的な回答をした割合が高い傾向にある。
- ・「レジリエンス」と「リーダーシップ」スコアは1年生時と比較すると全体的に上昇している。
- ・「学生意識調査」では「入学後のイメージ変化・学部学科のお勧め度」に関し他大学と比較して肯定的な回答率が高く、「大学教育・学生生活への満足度」の内「教員」についての肯定的な回答が増加している。「所属する学部・学科の教育目標」を知っている割合が前年より減少しているため対応が重要と考えられる。

こうした分析結果を共有し、担当教員は学生との面談に際して一層効果的なフィードバックを行う重要性を確認した。

大学入試動向については、河合塾の偏差値設定の考え方、それに応じて考慮すべき本学部の対応、共学化や経営系学部の新設を行った近隣の他大学の動向が紹介され、こうした外部環境に対応した学生選抜を行う必要性が改めて確認された。

【1】2024年度に教育学部で独自に実施したFD活動

教育学部では、教育学部独自のFD活動として、以下の4件のFD活動を実施した。これらのうち、2、3、4については教育学研究科FD委員会と共催で開催したものである。

1. 2025年度入試で導入される「探究活動入試」講習会の開催

講師：伊藤博美教授（教育学部）

日時：2024年4月9日（火）17:00～17:45

場所：教育学部棟D409

参加者数：25名

内容：2025年度入試で導入された総合型選抜（AO選抜）のうち、本学部で行われる探究活動入試について、本学HP入試情報の探究活動入試のサイトでも動画説明（<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/admissions/exam/class/sougou/ao/tankyu.html>）を行っている伊藤博美教授による詳細な解説を受け、それらについて質疑応答を行った。探究活動入試は新たな入試であり、事前に本学HPに掲載するミニ講義動画やテキストを閲覧の上、受験生自身がテーマを設定して探究しておくというスタイルの入試である。この入試では、オープンキャンパスなどで、受験生から、閲覧サイトや探究のテーマ、探究方法等について多くの質問が寄せられることが予想されており、それらの対応として有効な講習会であった。また、受験当日には、受験生が探究してきたテーマに基づくプレゼンテーションを評価するため、その評価項目や評価方法についても詳細な確認が行われ、学部内で共通理解することができた。

2. 授業改善にかかわる相互参観実施（①）と授業検討会の開催（②）

司会：学部・大学院FD委員（山中）

日時：①相互参観2024年10月21日（月）～25日（金）

②検討会 2024年11月12日（火）17:30～18:30

場所：①相互参観 教育学部棟（A203、C311、D314）

②教育学部棟D409

参加者数：21名

内容：教育の要である授業について相互に検討を深めることを目的として、以下のように行った。

①10月21日（月）～25日（金）に、教員は以下の授業を1つ以上参観する。

- ・保育内容総論（磯村正樹先生） 月 4 D314 1年生
- ・特別活動の指導法（山田真紀先生） 火 1 D314 3年生
- ・特別支援教育Ⅰ（松村齋先生） 木 2 A203 1年生
- ・カリキュラム論（古市直樹先生） 金 3 C311 2年生

②11月12日（火）の教授会・教育学研究科委員会後、授業検討会を開催する。

17:30～18:00

上記4授業の授業者とその参観者が集まり、4グループをつくって話し合う。話し合いでは、はじめに司会（発表者）、記録係を決める。そして、授業者が授業について説明する。その後、参観者が参観した授業の優れた点、自分の授業に取り入れたい点、授業からヒントを得た授業改善に関わる意見等について検討し合う。

18:00～18:20

4 グループの検討結果を発表する。

18:20～18:30

学部・大学院FD委員（山中）がこれまでの我が国の授業研究の流れをpptで簡単に紹介しながら今回の授業検討会をまとめる。

授業の相互参観はスムーズに行われ、授業検討会では活発な討議が行われた。中でも4グループの検討結果の発表はわかりやすく、また授業改善に向けた様々なアイデアやヒントが盛り込まれており、フロア全体が刺激的な場となった。最後のまとめのppt資料も欲しいという希望者が出る等、熱心な検討が行われた。

3. 研究倫理講習会の開催

司会：学部FD委員（磯村）

説明：学部研究倫理委員（山田）

学部研究倫理委員（山中）

日時：2024年12月10日（火）18:00～18:40

場所：教育学部棟D409

参加者数：20名

内容：研究と論文のマナーについての注意喚起と、12月10日付けで改訂する学部・大学院の研究倫理申請書式と申請方法についての解説、これまでの申請状況を踏まえた具体的な申請上の諸注意等を目的として行った。

まず山田学部研究倫理委員より、卒業研究等における調査トラブルや論文マナー違反について具体例をあげながら、卒業論文・修士論文・研究論文等の執筆における注意喚起が行われた。また、山中学部研究倫理委員より、改訂して明確化した学部生・大学院生・教員の研究倫理申請方法とそれに伴う申請書式について解説が行われた。また、過去の申請状況からよく見られる記載の不備等について確認があった。

これらから、研究に対する姿勢や倫理について、自身の振り返りとともに学生への指導の必要性が再確認されたとともに、改訂される研究倫理申請書式や申請方法などについて共通理解が得られた。

4. 「明日の保育・教育」を考えるFD講演会：「あれから42年」の開催

講師：國井修一教授（教育学部）

日時：2025年1月25日（土）15:50～16:50

場所：現代マネジメント学部206

参加者数：およそ200名

内容：「明日の保育・教育を考える」をテーマとするFD講演会では、講演者は年度末をもって退職される先生に依頼し、「最終講義」としてお話しいただいている。本年度は、國井修一教授にご講義をお願いした。

國井修一先生には、相山女学園大学に42年の長きに渡ってお勤めになられた間の数々のご業績やご活動を、ユーモアを交えてお話しいただいた。ご研究については、博士論文「遺伝的運動障害(Dop)ラットの中枢神経組織内における神経伝達物質の検索」のご研究を中心に、エピソードとともにわかりやすくお話しいただき、國井先生の研究者人生を学ばせていただいた。最後に、「なんでも知っている先生ではなく、『ちょっと待っててね。調べてくるから』と言える先生になってくださいね」と締め括られ、和やかな雰囲気の中で講演会を終了した。

なお、この講演会は4年生が全員参加していたこともあり、終了後に、本学に今年度開設されたSugiyama Connectについて、「Sugiyama Connect 説明会」に出席していた学生による説明会を設

けた。それにより、教員・学生ともに、今後の卒業生と学部とのつながりを確認した。

【2】2024年度教育学部FD活動の振り返り

- ・本年度は、国語の中・高教員免許状取得を目指すコースが開設され、教育学部の教員人数が増え、また総合型入試という新たな入試が導入された。このような現状から、入試や授業、研究に対して、情報共有と意見交換の場が求められた。
- ・本年度行ったFD活動は、それらの点を鑑みて企画したものであり、企画した講習会や授業検討会、講演会はタイムリーで有意義であった。特に授業検討については活発な討議が行われ、今後も継続して行っていくことが望ましいと考えられる。
- ・学生的心声をFDに活かしていくことについては、本年度も取り組めてはいないが、最後の講演会で学生が説明を受け持つなど、学生が積極的に発言していく機会は設けることができた。これらを皮切りに、学生的心声の反映を今後検討していきたい。

【1】委員会メンバー

又吉忍（委員長）、井野恭子（副委員長）、熊澤千恵、青木ゆかり、倉田真衣

【2】2023年度看護学部FD委員会の活動目標

新カリキュラム開始等の背景を踏まえ、教育の質の向上を目指し、相山女学園大学看護学部の教員としての資質向上のための活動（教育、学部運営活動、研究、社会貢献活動の推進に向けたFD委員会の活動）を行う。

【3】活動内容と結果及び課題**1. 看護学部第1回FD研修会の企画、運営、グループワーク内容のまとめ**

テーマ：「新カリキュラム構築のための研修会」

2024年9月4日（水）10：50～12：20 参加者40名

昨年度に開催されたカリキュラムWGと学部FD委員会で開催した研修会などを経て、新カリキュラムのDPを作成した。本会もカリキュラムWGと協働し、CP作成に向けて講義・演習・実習について教員同士で話し合い、理想の教育・理想の学生像などを踏まえ検討した。

実施目的：カリキュラム改正の背景を踏まえ、教育の質の向上を目指し、相山女学園大学看護学部の教員としての資質向上のための活動を行う。

実施内容：昨年度から引き続き学部FD委員会と新カリキュラムワーキングとの協働で実施した。新カリキュラムワーキングメンバーとその他教員との情報共有を踏まえ、今回は新カリキュラムのCP作成に向けて、全教員での意見交換の会を実施し、CP作成に向けた方向性を共有できた意義のある会となった。

*学部FD委員会と新カリキュラムワーキングとの協働開催。

2. 看護学部 助手・助教会 学修会

テーマ：「学生支援における困難、対応と今度の課題」

2024年12月20日（金）13：20～14：50 参加者20名

実施目的：本学における助手及び助教の臨地実習での役割を理解し、必要な知識を修得し、本学助手・助教としての学生支援ならびに自己のキャリアアップについて考察することができる。

実施内容：『看護学部における助教・助手のプール制』が本格始動した今年度、活動を通して様々な効果と課題が抽出された。それらを踏まえ臨地実習での助手・助教の役割と在り方、これに付随する必要な知識を理解する必要がある、それは有効な学生支援にも繋がることを期待できる。また、新たな学びや気づきを得る機会によって、助手及び助教としての自己の在り方を主体的に考え、自己のキャリアアップに繋がることを期待され则认为、本会を企画・開催した。

学修会内容としては、まず学部長の講義を実施し、講義内容を踏まえ、グループワーク・意見交換にて、プール制の効果と課題を抽出し、それらの共有とその対策について検討した。グループワークには専任教員もアドバイザーとして参加した。

*学部FD委員会と助手・助教会との協働開催。

3. 授業・実習アンケートの回収方法についての検討および課題

回収方法については、昨年度と同じ方法（当該科目の最終回に時間を少しとり、教室で入力作業を実施）

で実施した。実習アンケートについては、担当員からメール等の連絡を複数回行い、回答率の増加に努めた。また、教員のリフレクションに新カリキュラムへの検討事案内容の有無を学部FD委員会が確認し、検討事案については新カリキュラムワーキングと共有を図った。

4. 「2024年度看護学部第三者評価の講評会」

2025年3月11日（火）11：30～12：30 参加者31名

実施目的：2024年度看護学部第三者評価結果より、今後のカリキュラム改正に向けての課題を共有し、本学部の教育の質の向上と、相山女学園大学看護学部教員としての資質向上を目指す。

実施内容：坂本真理子先生（評価委員長）より、「第三者評価のご講評」と「ご指摘に基づく次年度以降の改善のご意見」などに関する内容を説明していただき、今後の学部運営（カリキュラム改正等）に向けての課題を共有した。

4 大学院FD活動報告

4－1 大学院FD委員会記録

4－2 大学院授業アンケート

(第1回) 2024(令和6)年5月21日(火) 16:56~17:14	1 報告 なし 2 議題 (1) 2024年度大学院FD委員会活動計画に関する件 (2) 2024年度前期大学院授業アンケートに関する件 (3) その他
(第2回) 2024(令和6)年8月30日(金) メール会議	1 報告 (1) 2024年度前期大学院授業アンケート実施結果について (2) その他 2 議題 なし
(第3回) 2024(令和6)年11月26日(火) ~12月2日(月) メール会議	1 報告 (1) 2024年度大学院FD活動計画検証(中間検証)について (2) 2025年度新任教員研修計画について (3) その他 2 議題 (1) 2024年度後期大学院授業アンケート実施に関する件 (2) 2024年度FD活動報告書に関する件 (3) その他
(第4回) 2025(令和7)年2月25日(火) ~3月1日(土) メール会議	1 報告 (1) 2024年度後期大学院授業アンケート実施結果について (2) その他 ①「相山女学園大学・大学院FD活動報告書(2024年度版)」原稿の 締切確認について 2 議題 (1) 2024年度大学院FD活動計画検証に関する件 (2) その他

1. 実施概要

・実施期間

前期：2024年7月16日（火）～2024年7月31日（水）

後期：2025年1月6日（月）～2025年1月25日（土）

・実施対象科目：大学院での受講科目すべてを対象として選択式及び記述式で回答

・実施方法：Google フォームにより Web で実施

2. 実施状況

【前期】

研究科	前期在学者数	回答数	回答率
生活科学研究科	6	4	66.7%
人間関係学研究科	31	11	35.5%
現代マネジメント研究科	7	5	71.4%
教育学研究科*	2	2	100%
計	46	22	47.8%

*教育学研究科は、座談会形式で学生2名の聞き取り実施

【後期】

研究科	後期在学者数	回答数	回答率
生活科学研究科	6	5	83.3%
人間関係学研究科	30	10	33.3%
現代マネジメント研究科	7	4	57.1%
教育学研究科*	2	2	100%
計	45	21	46.7%

*教育学研究科は、座談会形式で学生2名の聞き取り実施

5 研究科FD活動報告

- 5－1 生活科学研究科
- 5－2 人間関係学研究科
- 5－3 現代マネジメント研究科
- 5－4 教育学研究科

生活科学研究科FD委員

委員長 及川佐枝子

委員 加藤昌彦

解野誠司

井澤 幸

【1】実施報告

生活科学研究科は、中部地方初の生活科学系大学院として、衣・食・住に関わる学問の発展に寄与できる人材育成を目標としている。食品栄養科学専攻(修士課程)と生活環境学専攻(修士課程)の2専攻によって構成され、より高度な研究者養成を目指す博士後期課程の人間生活科学専攻も有している。本研究科のFD委員会は、2012年に発足されて以来、大学院の授業内容や教育方法を改善し向上させるための活動を行っている。2024年度は、以下の活動を行ったので報告する。

1. 生活科学研究科新入学生に対するプレFD研修

2021度に、博士課程の学生の中で、特に将来大学院教員をめざす可能性のある学生を対象に、「学士課程の授業を担う機会を与えることで、ティーチングに関わる技能を高め、将来の大学教員として指導的役割を果たす人材の育成につとめる。」こと、また2022年度に作成した「大学院博士課程プレFD・大学教員プログラム—大学で教えるために—」の資料をもとに、大学院生対象のガイダンスで、TAとしての心がまえを、研究科長からレクチャーすることを決めた。

今年度は、博士課程の新入生がいなかったため博士課程の学生に対するガイダンスは実施せず、2024年4月2日に修士課程の大学院生に対して、研究科長が学生を教育指導する観点と研究を指導する観点から説明を実施し、各院生から受講証明書を提出させた。

2. 研究成果発表会の実施

修士課程の両専攻における中間発表会、修士論文発表会を開催した。個別の指導教員のみならず、他の教員からも様々な意見や助言を受けることにより、大学院生の研究活動がさらに向上すると考えられ、とても有益な会となった。

(1) 大学院修士課程 中間発表会 2024年9月3日(火)

(食品栄養学専攻)

・加藤あゆ「豆味噌抽出物の肥満脂肪組織における慢性炎症抑制作用について—共培養系を用いた検討—」

(生活環境学専攻)

・柴田莉緒「大規模木造建築の普及に向けた大学教育の役割に関する研究—日本・フィンランドとの国際比較を通して—」

・豊田文美「サニタリーショーツの色彩・デザインがボトムスの視覚評価に及ぼす影響」

(2) 大学院修士論文発表会

2025年2月18日(火)

(食品栄養学専攻)

・加藤あゆ「豆味噌抽出物の肥満脂肪組織における慢性炎症抑制作用について—共培養系を用いた検討—」

(生活環境学専攻)

- ・柴田莉緒「大規模木造建築の普及に向けた大学教育の役割に関する研究－日本・フィンランドとの国際比較を通して－」
 - ・豊田文美「サニタリーショーツの色彩・デザインがボトムスの視覚評価に及ぼす影響」
- 上記内容の修士論文の審査及び最終試験を行い、続く研究科委員会において修士の学位授与が妥当であるとの結論に至った。

3. 授業アンケートの実施

本年度も生活科学研究科に在籍する大学院生を対象に、前期・後期の2回授業アンケートを実施した。方法は、Google フォームでwebにより実施した。アンケート回収率を、次の表に示す。

	2024 前期	2023 前期	2024 後期	2023 後期
食品栄養科学専攻（修士課程）	100% (2/2)	100% (2/2)	100% (2/2)	100% (2/2)
生活環境学専攻（修士課程）	50% (2/4)	60% (3/5)	75% (3/4)	25% (1/4)
合計	66.7% (4/6)	71.4% (5/7)	83.3% (5/6)	50.0% (3/6)

なお、アンケートの設問内容は昨年度と変わっておらず、前期・後期とも以下のとおりである。

※設問 1-1)～1-3) は選択肢形式、設問 2-1)～2-4) は記述形式

- 1-1) 所属専攻の科目構成は適切か
- 1-2) 所属専攻の時間割は適切か
- 1-3) 研究指導は適切に行われているか
- 2-1) 大学院の授業科目及び研究指導科目で興味深かった点、有益であった点など
- 2-2) 大学院の授業科目及び研究指導科目の改善すべき点
- 2-3) その他研究指導に関する点で、有益だった点、改善すべき点
- 2-4) 授業環境について、意見・要望
- 2-5) その他、気づいた点を自由記述

これらの得られたアンケート結果について、確認と検証を行った。回収率の向上は全学の課題であり、2022年度から回収率の向上を目指して、学生が回答しやすい選択肢による設問となっている。

生活科学研究科の回収状況についてみると、2024年度は、前期は66.7%、後期は83.3%と回答率が比較的高値で、特に後期には増加していた。2023年度と比較すると前期はやや減少したが、後期は大幅に増加した。回答しやすい設問となったことからアンケートに費やす時間はそれほど多くないと考えられ、積極的に授業アンケートへの回答を呼びかけることで回答率は上げられると考える。

次に、アンケートの回答内容について検証した。前期の選択肢形式の設問では、1-1)、1-2)、1-3) の全てにおいて、「そのとおり」「どちらかといえばそのとおり」と肯定的な回答であった。記述形式の設問においては、2-4) 研究環境について「セキュリティーカードを持たせてほしい」という意見があった。これについては安全上の問題があるが、できるだけ大学院生が研究の時間を有効に使えるよう工夫する必要がある。

後期の選択肢形式の設問では、『3) 研究指導は適切に行われているか』について、「そうではない」という回答が1名みられた（食品栄養科学専攻）。それに関連して記述形式の設問でも、授業科目に関わる設問項目、2-2) および 2-3) において、適切な研究指導が行われていなかったという内容の回答があった。回答について、研究科委員会においてFD委員から研究科の全教員に周知し、また、研究科長からは「今後、このようなことがないよう、学生に対して適切に研究指導を行うように」との指示が出され全教員が確認した。また 2-4) 研究環境について、休日も大学内に入れるようにしてほしいとの回答があった。

前期 2-4) の回答とも関連するが、安全面から難しい問題ではあるが、今後検討が必要であると考えられる。

現在、在学学生数が極めて少ない状態でのアンケートであることを考慮しつつ、今後も大学院生の学修や研究が円滑に遂行できるよう、研究科内で積極的な学生あるいは教員からの提案を集約し、より良い研究科へと改善を図っていきたい。

【1】実施報告

2024年度の人間関係学研究科のFD活動について、臨床心理学領域・人間共生領域の各領域ごとに報告する。

1. 臨床心理学領域**(1) 研究教育活動****①心理学実験・心理学特殊実験のTA（前後期）**

学部2年生を対象とした心理学実験（前期）、心理学特殊実験（後期）のTAとして、大学院生10名（M1）が1年間（うち2名は半期間）にわたり実験実習をサポートし、心理学研究法の実践的サポート、統計解析、レポート作成の相談にあたった。

②自主課題発表会（2025年1月9日）

心理学特殊実験の成果を発表する自主課題発表会において、大学院生（M1）9名が会場の司会（座長）として運営に携わった。

③修士論文中間発表会（2025年2月28日）

2025年10月に修士論文を提出する予定である大学院生（M1）12名が、2025年2月28日に発表を行った。発表者である大学院生にとっては、指導教員以外の教員からさまざまな助言指導を得ることができ、より広い観点から研究にアプローチする機会となった。また、指導教員にとっても、大学院生の研究を客観的に見直す良い機会となった。

④臨床心理相談室紀要『椋山臨床心理研究』の発行

教員1名が研究論文を執筆し、大学院生（M2）15名が事例研究を執筆した（2025年3月9日発行）。大学院生の事例研究については、原則として外部の臨床心理士や精神科医からコメントをいただき、事例の理解や自身の臨床実践上の課題などを振り返ることにより、その後の臨床実践や研究に示唆を得る好機となっている。

⑤オープンキャンパス

院生10名が分担して、心理検査体験および描画体験の補佐を行った。

⑥椋山女学園中学校「こころの授業」の実施（2025年2月17日）

椋山女学園中学校の道徳の時間において、教員2名と大学院生（M1）10名が「こころの授業」を行った。自分の考え方のクセ（スキーマ）についての説明を行った後に、学校生活でよくある場面を取り上げて、自分のスキーマを分析し、違ったスキーマで捉えてみるワークを行った。大学院生は、心理概念の説明や、生徒が実施するワークのファシリテーションを行い、心理臨床実践を体験的に学ぶ場となった。

(2) 臨床実践**①臨床心理士資格面接試験の個別指導**

臨床心理士資格試験の一次試験に合格した全員に対して、教員が分担して面接に対する個別指導を行った。

②公認心理師試験・臨床心理士資格試験対策講座

2024年11月25日から2024年12月23日まで計12回、公認心理師試験・臨床心理士資格試験対策講座を外部講師と契約して開催した。参加者は、M2および修了生の14名であった。

③WISC-5及びWAIS-IV（知能検査）研修会

WISC-IVから改訂されたWISC-5及び、WAIS-IIIから改訂されたWAIS-IVについての研修会を2025

年 1 月 24 日に実施した。参加者は M2 が 3 名、M1 が 12 名の計 15 名であった。

④臨床心理相談室ケース報告書の提出（2025 年 3 月）

臨床心理相談室では全相談員・実習員（教員・非常勤相談員・ケースを担当している大学院修了生・大学院生）が個別に臨床実践を振り返り、主訴の改善や進捗を検討し、記録をきちんと保存することができたかについて振り返る機会として、年 1 回のケース報告書の提出を行った。大学院生・修了生には、心理専門職における職能として重要な位置を占める自身の臨床実践・ケースの主訴の改善度などを確認し、次年度以降の目的を明確化する機会となった。

⑤日進市教育委員会との連携事業

- ・発達障害保護者相談会：日進市内の小中学生の保護者を対象として子どもの発達障害に関する相談会を開催し（2024 年 9 月 12・13 日の 2 日間）、26 件の保護者からの相談を受けた。大学院生の陪席は 7 名であった。
- ・小中学校への巡回指導：教員が市内の 13 小中学校に、前後期を通じ原則として 2 回出向いて巡回指導を行った。

⑥相談室主催特別講演会（2024 年 12 月 7 日）

外部講師を招いて、臨床心理相談室主催の特別講演会を開催した。講演会には、相談室員だけでなく、地域の方をはじめ、教育、福祉、医療など様々な領域から、多くの方にご参加いただいた。講師による、こどもの心理支援に関する講演は大変好評であり、日々の臨床活動を見直す好機となった。また、本学相談室の活動を、地域の方々に広く知ってもらう機会となった。

⑦公認心理師実習演習担当教員講習会への参加（2024 年 12 月、2025 年 2 月～3 月）

公認心理師実習演習担当教員講習会に 4 名の教員が各 5 日ずつ参加した。2 日間の実習指導者養成講習会との共通科目、3 日間の実習演習担当教員のための各論などがあり、公認心理師養成において重要な視点、学生支援の方法、実習機関との連携において重要なポイントなど、他機関の実習指導者や他大学教員とのワークを用いた実践的な研修により、本学における今後の課題を検討する機会となった。

2. 人間共生領域

本領域では前期と後期にそれぞれ 1 回、修士論文の中間報告会を行うこととしている。これは院生が領域を担当する全教員に対して修士論文作成のための研究の進捗状況を報告し、様々な助言、指導を受ける場として設定されており、今年度の前期は 4 月 13 日（土）に開催し、領域の教員と院生全員が参加した。しかし、後期については入試業務等の影響で日程調整がうまく進まず、また報告者の M2 の院生も体調不良を起こすなどしたため、開催することができなかった。

なお FD 活動の一環として、領域担当教員による授業改善のための意見交換の時間を院入試の業務後に設けたところ、メディア授業対応について、前向きな教員と対面での授業効果を重視する教員とに分かれる傾向にあった。とはいえ、社会人院生の受講環境を整えるうえでメディア授業科目の設定は有効であると考えられるため、6 限開講の授業において更にメディア授業を増やすことを検討していきたい。また研究活動に関しては、人間学・ジェンダー研究センターの運営や人間講座、フォーラムの開催に領域の教員が多く関わるなど、アウトリーチが積極的なことが確認された。

【2】2024 年度大学院授業アンケート結果について

前期・後期それぞれに実施された大学院授業アンケート結果の確認・検証について、臨床心理学領域・人間共生領域の各領域ごとに報告する。

1. 臨床心理学領域

良好な評価が得られた科目として、「臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法特講」「精神医学特講」「心理療法特講」「ケースカンファレンス」についての記述が見られた。それぞれの記述では、各心理検査に

ついてじっくりと学ぶことができた点や、臨床の実践につながる深い学びや体験をすることができた点、様々な視点からの指摘に触れることができた点が評価された。研究指導についても、概ね高評価が得られており、学会参加についての情報共有なども高く評価された。

一方で、改善要望としては、「臨床心理査定演習Ⅱ」での心理検査の所見に対してのフィードバックの不十分さが挙げられた。こちらについては、全体に対する紙面によるフィードバックを配布するなどの改善を行っていくことが確認された。研究指導については、ゼミを超えた合同発表会などの機会を求める意見も見られたため、長期休暇などでの合同ゼミの開催などを検討することとなった。

2. 人間共生領域

人間共生領域の院生による回答は前期 3 件、後期 0 件であったため、前期回答分のみを検討した。「科目構成の適切さ」「時間割の適切さ」「研究指導の適切さ」のいずれにおいても「そのとおり」が 2 件、「どちらかといえばそのとおり」が 1 件であり、特に問題はないと思われる。自由記述欄の回答でも「様々な分野の先生よりご指導いただけた」や「視野を広げることができた」という肯定的な回答が見られたが、研究環境については、サテライト教室の現マネ棟に対してプリンタや貸出傘への要望があったため、改善を図るよう検討したい。

なお、本領域は社会人院生向けに土曜日開講を行っているが、今年度は後期の事例研究Ⅱにおいて、入試業務等と重なることが多く、事前の日程調整のうえ、隔週の連続 2 コマ開講にすることで授業回数を確保した。今後も同様の事態が生じると予想されるため、土曜日開講の形態について、改めて領域で検討する必要があると思われる。

【1】活動報告

1. 第1回修士論文合同発表会（1年生）（2024年9月3日）

研究計画の具体化、研究手法・対象の精緻化を目的として発表会を実施した。指導教員以外からも各学生に対する個別のアドバイスが提供され、研究方法、文献調査などについて、本研究科教員の知見を活かしたフィードバックが実施された。

2. 第2回修士論文構想の合同発表会（1年生）（2024年12月24日）

第1回合同発表会での教員からのアドバイス・知見を活かし、修士論文の構想について活発な議論が行われた。

3. 2年生修士論文合同発表会（2024年9月3日）

データ、事例収集、論文の構成論理などについてアドバイスが提供され、学生と教員との間で積極的な議論が交わされた。

4. 2年生修士論文最終発表会（2024年12月10日）

最終段階の修士論文発表が行われ、論文完成に向け、指導教員を中心に最終的なアドバイスが提供された。

5. 前期授業アンケート調査（2024年7月中旬～下旬）

前期の授業アンケート調査を実施するとともに、学生が少数であることから、主指導教員が各科目の難易度や授業の早さなどについて個別のヒアリングを行い、修士課程の学生に対する理解度や満足度の一層の向上を図った。

6. 後期授業アンケート調査（2025年1月中旬～下旬）

後期の授業アンケート調査を実施し各回答項目で肯定的な評価が確認された。加えて、指導教員が学生に対し個別に改善可能な事項をヒアリングすることで、これらのフィードバックを今後の研究科の授業充実に反映させていくことが確認された。

【1】2024年度に教育学研究科で独自に実施したFD活動報告

教育学研究科では、本研究科独自のFD活動として、以下を実施した。これらは、教育学部FD委員会と共催で実施したものである。

1. 授業改善にかかわる相互参観実施（①）と授業検討会の開催（②）

司会：学部・大学院FD委員（山中）

日時：①相互参観2024年10月21日（月）～25日（金）

②検討会 2024年11月12日（火）17:30～18:30

場所：①相互参観 教育学部棟（A203、C311、D314）

②教育学部棟D409

参加者数：21名

内容：教育の要である授業について相互に検討を深めることを目的として、以下のように行った。

①10月21日（月）～25日（金）に、教員は以下の授業を1つ以上参観する。

- ・保育内容総論（磯村正樹先生） 月 4 D314 1年生
- ・特別活動の指導法（山田真紀先生） 火 1 D314 3年生
- ・特別支援教育Ⅰ（松村齋先生） 木 2 A203 1年生
- ・カリキュラム論（古市直樹先生） 金 3 C311 2年生

②11月12日（火）の教授会・教育学研究科委員会後、授業検討会を開催する。

17:30～18:00

上記4授業の授業者とその参観者が集まり、4グループをつくって話し合う。話し合いでは、はじめに司会（発表者）、記録係を決める。そして、授業者が授業について説明する。その後、参観者が参観した授業の優れた点、自分の授業に取り入れたい点、授業からヒントを得た授業改善に関わる意見等について検討し合う。

18:00～18:20

4グループの検討結果を発表する。

18:20～18:30

学部・大学院FD委員（山中）がこれまでの我が国の授業研究の流れをpptで簡単に紹介しながら今回の授業検討会をまとめる。授業の相互参観はスムーズに行われ、授業検討会では活発な討議が行われた。中でも4グループの検討結果の発表はわかりやすく、また授業改善に向けた様々なアイデアやヒントが盛り込まれており、フロア全体が刺激的な場となった。最後のまとめのppt資料も欲しいという希望者が出る等、熱心な検討が行われた。

2. 研究倫理講習会の開催

司会：学部FD委員（磯村）

説明：学部研究倫理委員（山田）

学部研究倫理委員（山中）

日時：2024年12月10日（火）18:00～18:40

場所：教育学部棟D409

参加者数：20名

内容：研究と論文のマナーについての再確認と、12月10日付けで改訂する学部・大学院の研究倫理申請書式と申請方法についての解説、これまでの申請状況を踏まえた具体的な申請上の注意等を目的として行った。

まず山田学部研究倫理委員より、卒業研究等における調査トラブルや論文マナー違反について具体例をあげながら、卒業論文・修士論文・研究論文等の執筆における注意喚起が行われた。また、山中学部研究倫理委員より、改訂して明確化した学部生・大学院生・教員の研究倫理申請方法とそれに伴う申請書式について解説が行われた。また、過去の申請状況からよく見られる記載の不備等について確認があった。

これらから、研究に対する姿勢や倫理について、自身の振り返りとともに学生への指導の必要性が再確認されたとともに、改訂される研究倫理申請書式や申請方法などについては共通理解が得られた。

3. 「明日の保育・教育」を考えるFD講演会：「あれから42年」の開催

講師：國井修一教授（教育学部）

日時：2025年1月25日（土）15:50～16:50

場所：現代マネジメント学部206

参加者数：およそ200名

内容：「明日の保育・教育を考える」をテーマとするFD講演会では、講演者は年度末をもって退職される先生に依頼し、「最終講義」としてお話しいただいている。本年度は、國井修一教授にご講義をお願いした。

國井修一先生には、相山女学園大学に42年の長きに渡ってお勤めになられた間の数々のご業績やご活動を、ユーモアを交えてお話しいただいた。ご研究については、博士論文「遺伝的運動障害(Dop)ラットの中枢神経組織内における神経伝達物質の検索」のご研究を中心に、エピソードとともにわかりやすくお話しいただき、國井先生の研究者人生を学ばせていただいた。最後に、「なんでも知っている先生ではなく、『ちょっと待っててね。調べてくるから』と言える先生になってくださいね」と締め括られ、和やかな雰囲気の中で講演会を終了した。

なお、この講演会は4年生が全員参加していたこともあり、終了後に、本学に今年度開設されたSugiyama Connectについて、「Sugiyama Connect 説明会」に出席していた学生による説明会を設けた。それにより、教員・学生ともに、今後の卒業生と学部とのつながりを確認した。

【2】授業アンケートの振り返り

本年度の本研究科の大学院生は2名であったため、アンケートではなく、座談会形式で授業について語ってもらった。

前期については、7月に座談会を行い、聞き取りの結果、授業参加や研究については順調に取り組めているものの、授業については休講や変更、他の授業等との合同授業などがあることなどにやや戸惑っている面も見受けられた。しかし、2月に行った後期の座談会では、後期になって、受講にも慣れ、学部授業からの発展性も多く感じながら充実した授業が受けられているという意見が見られた。

6 FD委員会名簿

2024年度全学FD委員会委員

所 属	職位	氏名	選出区分
学長補佐	教授	五百部 裕	学長補佐
生活科学部	准教授	及川 佐枝子	学部FD委員
国際コミュニケーション学部	教授	水島 和則	学部FD委員
人間関係学部	准教授	舩田 亮太	学部FD委員
文化情報学部	教授	Petruschak William	学部FD委員
現代マネジメント学部	講師	瀧澤 創	学部FD委員
教育学部	教授	山中 文	学部FD委員
看護学部	准教授	又吉 忍	学部FD委員

2024年度大学院FD委員会委員

所 属	職位	氏名	選出区分
学長補佐	教授	五百部 裕	学長補佐
生活科学研究科	准教授	及川 佐枝子	研究科FD委員
人間関係学研究科	准教授	布井 雅人	研究科FD委員
現代マネジメント研究科	講師	瀧澤 創	研究科FD委員
教育学研究科	教授	山中 文	研究科FD委員

相山女学園大学・大学院FD活動報告書（2024年度）

相山女学園大学・大学院ファカルティ・ディベロップメント
第12号（通巻 第25号）

2025（令和7）年6月発行

編 集 相山女学園大学全学FD委員会・大学院FD委員会

発 行 相山女学園大学

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17-3

TEL 〈052〉781-1186（代）